

鏢馳の事

世に鏢馳と云ふもの有り関東の鏢馳北國の魁魁西國の人よゆり時

必ま一人知れども又或疾出東北の血出と痛と云

延有疾疾血出痛骨髄り微熱男よせまらや

人の痛と云ふ痛鏢馳と云まると知れども疾の甚むと

血の多し出るとり驚と小兒あごハ虫持と云疾大今ても

驚顛腫痛り入痛月と成者と多中よは死よ或

ものもちり能心は急屋とま也故は終見及ハ生及ハ

わざりと記述云り

はもの形ち人眼よ見ゆとひまら〜疾斗け也その

疾は必曲尺のたりに付〜鏢の形も〜鏢馳と云

と疾、疾大小あ〜者小なるハ二三寸よると五六寸より〜

深き穴下り二寸にせり野別大森村より寛竟たるか
 土氏と申けるハ内股守海の底にうへて深きハ骨連
 常りく白く骨生るりく思らむ曲物たり
 初底に付時ハ心秋知くく骨生之む怪物の目く
 見ゆらゆらさる之故と云く秋ハうくく風
 ありく切りく況あまきとたうはあぬう大森村よ
 くハ風吹く切りくま月らんわをきり秋
 鬼りきりハ切りく何とせよ不思議なる物之
 先底初底の付る時ハ肉切切裂底に少く黄き
 小くみて孫まり居り也
深淵の海に生るる骨は俗に 血ハつてぞ
 痛むる骨とて血脈發出痛むる甚むるの事なり
 底を能く切る利のうく切割るめくこの也

鎌鼬

ハ底必人の股膝膈り出果たり多ハ膝に採はけ也
 腰より下はけ幸ハ掃たりけの葉なるに地と離る
 僅一尺餘りにとぞ形若りハ顔顔ととけらる
 あかハ多ハ特の事なり又云くくか多ハハ
 皆旋風の吹来時之たをまバ旋風は葉く中哉
 形行と云くの事なりまハ大森村より股とけらる
 一と云ハ深淵の中へ入居るの事也
 予一年野別大森村り逗留の時迄はり出する十五歳
 年の小童の鼻を頬へうもくくく底を鎌鼬り似
 ますハ底也ト同一ノ果く鎌鼬ハ底に云童の母親
 例は居り吐きハ五歳の時向の山へ五集らち抱び
 けく抱びるにけのめく雨鎌子ハ小鎌形く

馬の鼻より入ると云傳の故也

以怪物伎徒風の渦巻所と好む駈入る者あり大塚

護持院の門前より入る者ありと云前載物賣ハ旋風吹

来りて後隙衣額より出来しもの事と云ぬ事あり

以怪の多し所よりハ旋風の偏あり衣出来の事也

大塚村の如し

以怪物所知を難しと雖亦一山川は多し東海道よりハ

箱根薩埵の山路り常々有来あり薩埵ハ具津

川流と成別く多し天龍川富士川大井川金谷伏原の

中山かど多きを所と云然僅一度の穢りよと云分用を

事也江戸を元八平との事能所ゆ急り時く

有来ありと云人較多し穢り度と云及事也

中傳へる名古屋よりハ穢り度及事也

筆寺色よりハ穢り度及事也

天白川が云山門の末を河りハ先唱海の東桶廻回を

以意ハ此河もも居る所成所也却て穢り山よと云く

居る之 本曾山かどハ此河も先木の事には志深く穢り

近時ハ本曾山中ニモアリと云 名古屋の事と云平穢り所ありハ此ハ

事なり諸國の人よ母と云多しハ此河の如く及人多し予

文政六年野別大塚村は日光の邊邊尚せ時此地ハ澤龜

多し土地の如く穢り澤山よと云り人ども村中

みくハ年々一人二人ハ入る者ありと云不審ゆせ

北地（北の地）の山を如（ごと）旅宿（たびしゆく）のまふ山を（ま）く（く）謙（けん）龜（かめ）の事と云（い）は
 多（た）く平原（へいげん）の野地（のち）なり
 尋（たづ）ねに左（ひだり）松（まつ）の溪（たに）ハ一向（いっこう）存（ぞん）在（ざい）す（す）と云（い）予（よ）日光（にっこう）色（しき）う（う）くハ
 も（も）の（の）之（の）僅（わずか）十里（じゆり）の遠（とほ）ひ（ひ）なり（なり）及（およ）び（び）す（す）や（や）同（どう）ハ（ハ）成（な）極（ごく）
 日光（にっこう）色（しき）う（う）くハ左（ひだり）松（まつ）の事（こと）と有（あ）り（り）水（みづ）う（う）く（く）と云（い）は
 り（り）と云（い）虚（うつ）實（そ）一（いつ）向（こう）在（ざい）る（る）と云（い）ま（ま）と存（ぞん）在（ざい）る（る）と云（い）は
 是（こゝ）皆（みな）大（だい）地（ち）等（とう）儀（ぎ）の物（もの）と云（い）む（む）而（しか）人（にん）智（ち）と云（い）は（は）の（の）め（め）と云（い）は
 我（われ）耳（みみ）目（め）は見（み）受（う）を（を）ん（ん）本（ほん）ハ初（はつ）め人（にん）多（た）と云（い）は（は）況（いは）鴉（あ）明（めい）三（さん）世（せ）
 一（いつ）貫（くわん）の理（り）ハ多（た）岐（ぎ）を（を）ぬ（ぬ）人（にん）の多（た）と云（い）は（は）理（り）也（なり）大（だい）東（とう）村（むら）の事（こと）ハ
 此（こゝ）世（よ）界（かい）中（ちゆう）ハ常（つね）く有（あ）る（る）と云（い）は（は）知（ち）居（い）不（ふ）思（し）成（じやう）と云（い）は（は）今（いま）く
 不（ふ）思（し）成（じやう）と云（い）は（は）字（じ）部（ぶ）云（い）の事（こと）ハう（う）松（まつ）の怪（あや）ハ世（よ）界（かい）ハ（ハ）の（の）事（こと）と云（い）は
 ことと云（い）は（は）思（し）ひ（ひ）居（い）る（る）怪（あや）事（こと）と云（い）は（は）知（ち）く（く）怪（あや）と云（い）は（は）井（い）中（ちゆう）
 の怪（あや）の怪（あや）濃（のう）冥（めい）と云（い）は（は）成（な）極（ごく）



世
吉
山



又其まに捨を待ハぬ日ハ愈々我ハ依後の外科
 中多勇伯余ハ活リ侍リ〜と云々
青葉松と解ク死するの

右と以テ見る時ハ依後たつてハあそ指リ見ゆ
 以懼物漢去も者又漢名ハ何成ものやと信業
 家博識家ホに尋き〜と信〜〜ハ絶風ハ本草
 根目啓蒙の虫の形ハ漢鬼虫と云と見あり〜
 漢龍の類と見〜〜漢名〜〜と消〜〜有との
 澤ハ所ハ全〜漢龍の〜
 本草細目啓蒙虫部〜云々
 漢鬼蟲

鎌龜

二ノ三十六

詳ナラズ

一名射工蟲 抱朴子 沙蟲 異名 沙虎 溪弩 共同

溪毒 典籍便覽 越後高田海邊ニテ行人曲阿ノ處ヲ過ルニ忽チ砂高ク吹

上リテ下ヨリ氣出ルガ如ク覺ユレバツノ人コレニ射ラ

レテ卒倒シ省サルヲ傷寒ノ如シ然レミナ服藥メ治ス

病人ノ身ニ必僂月形ノ傷アリ故ニカマキリムシ

ト云或ハアカムシト云或ハスナイタト云フ然

レ氏ソノ蟲ノ形狀ハ詳ナラズ從來言傳フル越後七奇中

ノカマイタ子モ皆同事ナリ此事越州ニ限ラズ他國ニモ

アリ是皆溪鬼蟲ノ屬ナリ正字通ニ葛洪所謂溪毒似射工

而無物者即蟻類也ト云ヘリ

廣文和幸草り 結搦和名カマイタチ 廣州方物記云結搦
 因風騰躍甚捷越巖過樹如鳥飛空中人張鍊網得之見人則如
 羞而叩頭乞憐之態人擲擊之倏然死矣以口向風須臾復活惟
 碎其骨破其腦不死一云刀斫不入火焚不焦打之如皮囊雖鍊
 擊其頭破得風起惟石菖蒲塞其鼻即死再不活嶺南人呼曰風
 狸即此獸也と見るは幸ハ三才會一と云物と云予
 思ふに風狸ハ状ちを獸と云くは多しと云物ハ前
 云云ふかむり誰と状ちと見个とのまゝハ回類異種
 うと云思ふる回書り 本邦ニテハ能州ニ多シ民家夜
 座シテ居ル所ヘイツクトモナク此獸飛來リテ人ヲ傷ル
 多シ其疵口刀ニテワギタルガ如シ石菖蒲ニテ急ニ洗ヒ又
 ハ煎湯中ニモ石菖蒲ヲ加ヘ用ユ又石菖蒲一味ノ煎湯モ佳

錄鮑

三十七

ナリ又舊曆ヲ黒焼ニメ付ルモ佳ナリ早ク治セザレバ癩疾
 ノ如クニ爛レルナリと云り石菖蒲と古曆の黒焼
 薬と見ゆる

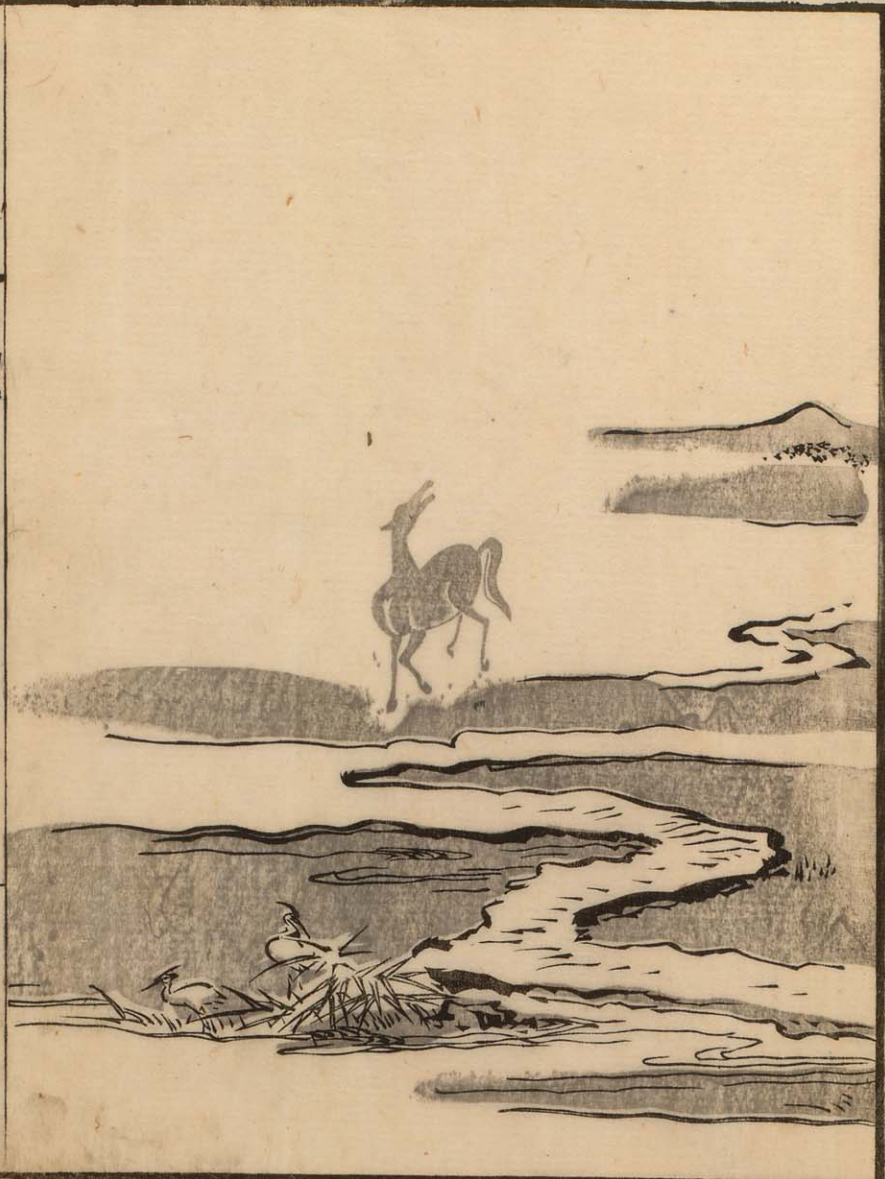
又廣照字典リ 水經注永昌郡北山水傍瘴氣殊惡氣中
 有物不見其形其作有聲中木則折中又則害名曰鬼彈と見え
 りりは鬼彈の形容日本の藻鼈に似たりを参考の爲に
 抄出せりと

藻鼈ハ戦後七不思張の一うて北戦并淡東遊記を
 みるに志るは色を黒く右圓く古曆と
 黒焼の〜さゆ〜用ひ奉る〜数日の間を念
 也戦後色ハ別〜多々奉る〜と云り

又欣膳摘要に藻鼈の底ハ大根の皮のけを法あり

自らに牽引せしむる所と付くまゝ人自ら
 馬と牽引し出しぬまゝと関の方へ新道り日地坂と
 りんを波阜分関へハ水の方へ七里橋と有け所へ新懸るとギバのうけ
比日野坂とハ波阜の三里あり
 へり馬ハ覺たりギバのうけるは三の巻ハ毒後更りけ
 馬の靈魂は地り止りあか其後け所へ馬と牽行せ
 必馬の嘶声はゆま牽引馬と必鳴合牽るまども何
 目り見ゆかそのハあま響く前道より右の方を經
 むふの畑の中はあま響くつうくそ目ト所うく嘶き
 又その馬の着衣をいれくそ目ト着とぞ今け意の
 馬と牽そのハ皆現りは牽と去り居る事也元來の
 抱の馬士がは馬と覺する事大方好くざりけ馬の
 覺する後ハ甚かと居る主人の血合とそ操りけ

五柳画不庵



交政四年己卯の事と我は是ハ予ガ方の下男回別志津村
若松ガ自男ヨリ地一馬を寄歩引以事と能知居て
具ヨリ滑リ一車ヨリ

辨カ天婦リと付ヘリ事

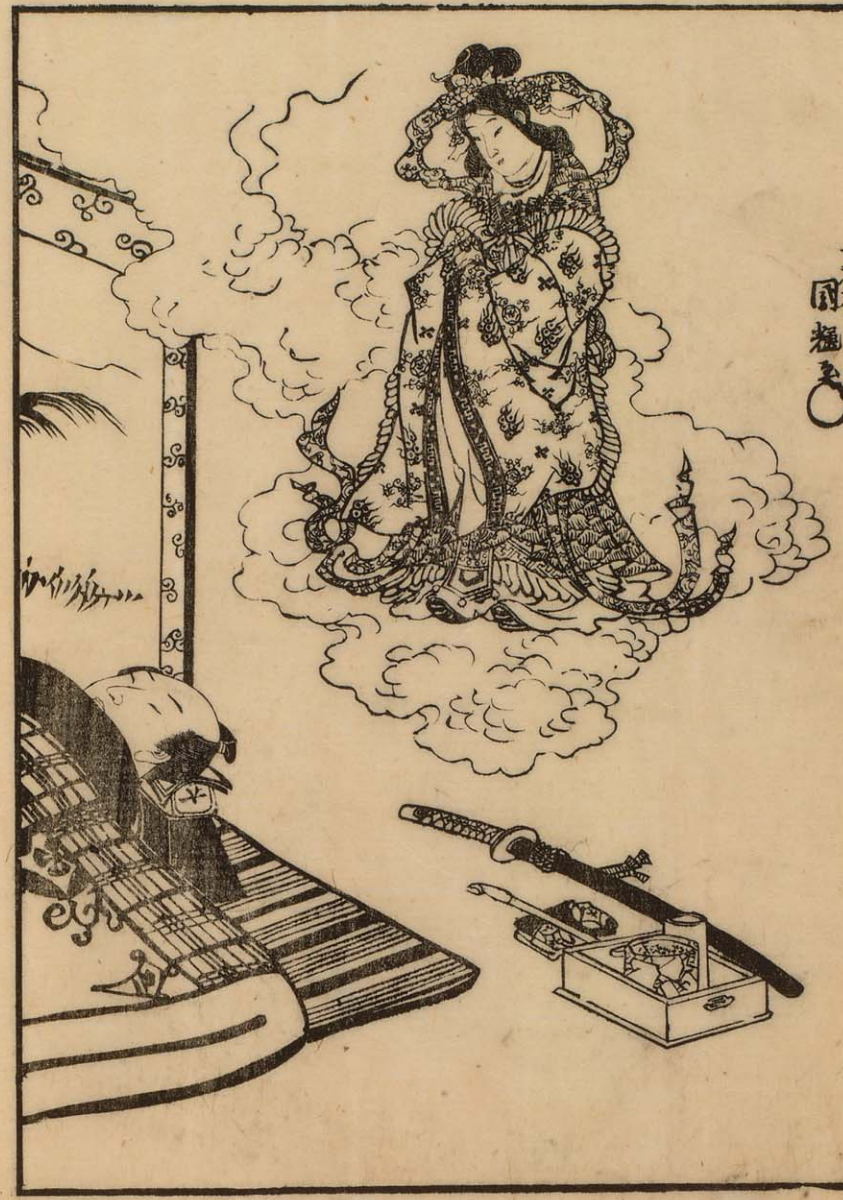
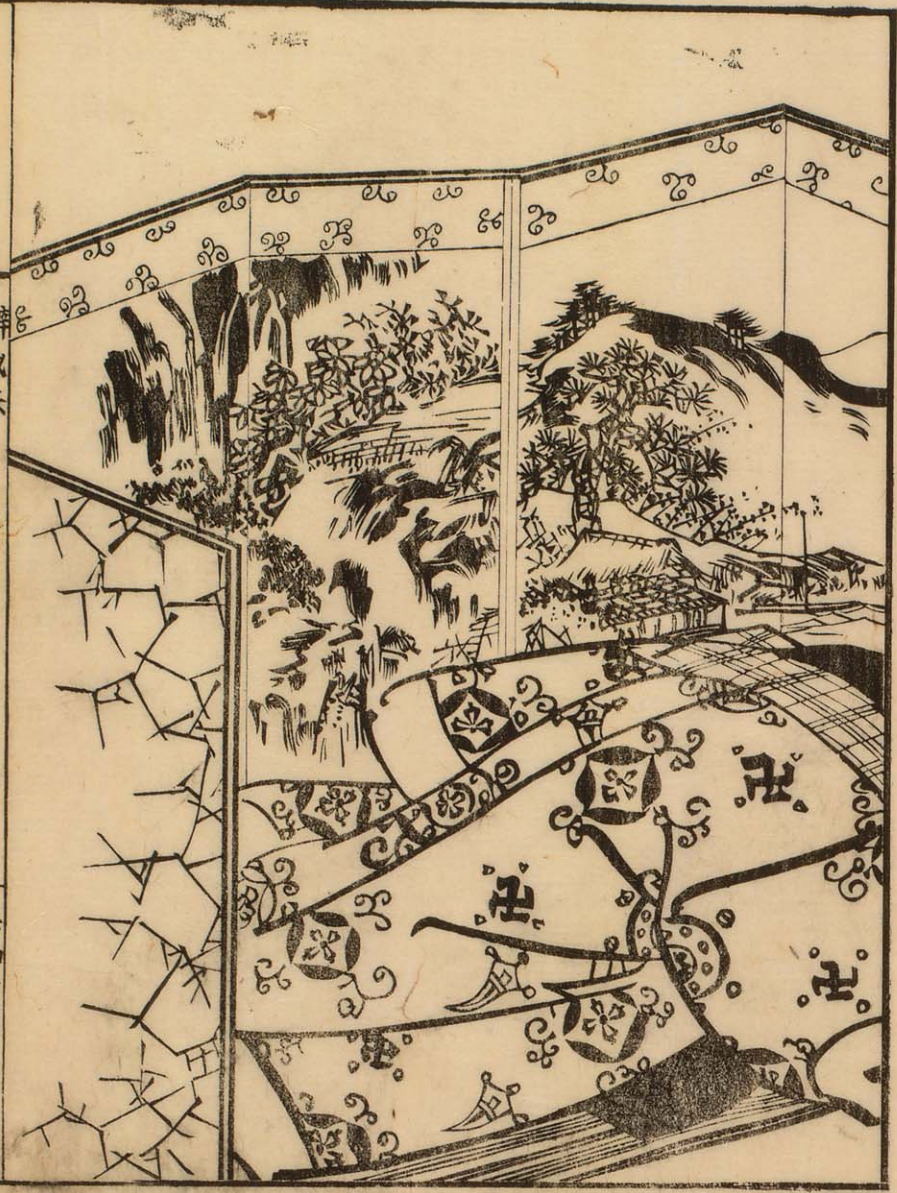
附夜這地蔵の事

元田活家の藩中一々其後法履キ一竹葉を世人着
ル江の爲辨カ天と格別リ信作カ或年ハの時ハ
義親一々信リ一思ハ松年頃ハの如ク信カ
事トモトモ成書客の天女トヤ正真の神姿と相
キテ事トモトモ竹葉先一度書客と相キ事ト
大願と後一願リに事ト念ト事ト事ト天女ト
新形ハ切形トと他更カ一ハいたるトヤ或夜月殿ハ

辨カ天

庭トサ一冥ト夜眼ト一相まきとせりト口容貌ハ
義友ハ事ハ一と事ハ一寶冠ハ輝キ清夜ハ更繁
見ルト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト
感ハ事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト
事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト
昔ハ西放貴妃ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト
想ハ懸想ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト
忘ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト
如ハ事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト
元ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト
多ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト
我ハ事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト事ト

ぢうへい深き煩惱と救ひ多くとて後ハ夜夜地事如く
 唯は事との新預うまうしに天女と誓預の切
 形かと踏心業多ひうかや或夜森屋へ忍び来りまへ
 死しうハ天女と現ぞとハん支の如く文情の厭六
 思ひもううざの事多きとてはが念預の切うと踏心
 業々今宵預の如く一夜枕とかたきとてまへと願うとて
 心まかに寶帯と解御衣の裳と掲げ荒爾とて
 夜着の月へ入りまへ人回りがとて誓せるとんぞれ
 どと其玉顔の義しき事誓ありあうけつ乳への
 えまうね白ひハ伽羅麝香うとまきうり蓬萊の仙女
 と界の天女うとて如きの義人二人とハ有る者と誓
 と魂も奪りて是の源外なりとて國中ハ有る物



命のとう人只後我と祈ふ心の切あるにめぐく一爰は
 二度とも執りて籠るハ汝の妾念と情とせんま
 ぬるにわとも抱来のめし治すに思ひとまを子母を
 増えまらまハ汝ハままのめし強懸邪濁の罪深と
 是事とあつてふかのた極のものとも思つて
 変りとの男と穢しきまハ今我ホが染りぬり
 ぬるにまハ今宵の汝が精液ハ悉く返
 度も也~~~~夜もぬるハお月も今宵と後
 再び我と念ども~~~~若げと念頼と無るものあつて
 初め汝が祈誓の如く二つまも命と亡く永く之間
 地獄り墜しきりも度とぞとのめひく天女ハ深
 めひつり是皆まさしき事~~~~夢のめひく

辨天

跡りお月もハ夜もぬるのとり聞りまら精液の澤ふり
 有つてハ情愛とて思ふと實は漏れぬる事
 有~~~~後ハ穢物~~~~毎~~~~吐~~~~と
 あり~~~~ま昔~~~~或人の平が友内友廣庭り折
 吐~~~~ぬかと又平は吐~~~~つりかの江の橋の別當
 若本院の先祖と形のごとく天女ハ別深なり
 きりとの吐~~~~ま~~~~ま~~~~と昔強り忠告
 事と女ハ兼且ハ不審とま~~~~今犯もことと終
 續吉事決~~~~後~~~~ま~~~~のま~~~~の
 せ~~~~ま~~~~の又好ま~~~~有~~~~るん~~~~風月と
 め~~~~河~~~~び~~~~男~~~~は~~~~は~~~~名~~~~所~~~~は~~~~ね~~~~び~~~~り~~~~は~~~~人~~~~は~~~~こ
 辱~~~~黄~~~~妃~~~~の~~~~け~~~~り~~~~と~~~~ぬ~~~~と~~~~ま~~~~と~~~~ま~~~~念~~~~の~~~~心~~~~と~~~~か~~~~し~~~~

見せぬ世の人とてひく心とて身とてくむ
離宮の海とていよのぞくハ昔と思へ海とてく
馬魂のほのわたりよりいへをわたり
腸とたの那のわたり思ひあめをわたり世よ人
りく麻ハハ心とてくまをわたり
このく年月をまごすやどにわたり時夢にびんけり
いひくふ童子来りてく出肥のめとて速よあふ
あしと夢の仲よんよ海とてくたをわたり
童子と先りたてくやうりけりわたり出肥の
又敷よまわりぬたまのまをまをわたり綿のまをり
除くぬむ肥ハ麻のまをり張糸ハ志よ居まり
年来の心とてくまの相をわたりまをり

移んぬりてくまをわたり人間の女のわたりむつび
ちのぼく後思ひつめぬく出肥のまをり
ゆるのまりのわたりまをりに身わたりたをわたり
まをりまをり出のまをり出の人間のまをり
くまをりまをりまをり張糸移んぬりにあ
げんまをりのまをり時出肥人とてくまをり
香湯とまをりけくまをり身と洗浴とてく後身を
ぬく麻のまをりまをりに身わたり思ひのわ
のりぬまをり出まをりのまをりのわたり
あまもくまをりまをり及まをり出まをりのまをり
まをりまをり出の風面とてく驚くまをり人よ
まをりまをり止まをりまをりまをり出肥とて

新くくハ行こう去らぐく神佛うそ和光回養と云奉
 河邊バ行もそひびぐくおけ之明院の女天ハ三像ま
 十八九才の女種り見せさせあて定く作佛やらん
 吹まの海例年正月七日面らん國庭あり清衣と云
 之書り色く聖年見せれば清もそとてくをえんれ
 居ハ常く歩行ありま故也との奉と元人ハと云む
 奉りりたるもる奉りやは活行爲と吹行度
 之のりり右色うくハ准志んぬものこのこと奉
 全同日の疾也
 又武別入間郡富村北西十里の地産ると靈験新り
 一々をせ来くと奉り所之は地産ると奉ると云信憑の
 夜ハハ地産ると云くま名も予は奉ると云村の長

辨文天

二ノ四十九

今ふそのよ安んたをいとおさう故と云奉
 四度ゆと昔ハ夜をいとお行りやあうやと回入と奉
 女ハ元娘かどもおハ心かろうと信となさうくと云
 ことハ心たれと云り御ハ現立信成奉りまふかと
 志まらやと母り文ハ存りまうと云く昔ハ
 所ハよくくはにや信の奉放産うともまふと云と
 昔てまごうあうとまごもと古来信にりや信の奉放
 行もまごう信に夜ありのそ是又回信の疾
 或人ハ書と目く汗流く云天女の四容貌余ハ羨慕
 一々もまごも奉初まご御座する風情はと云ハ
 巻りまごせ奉にとく書出る極り思いと云ハ

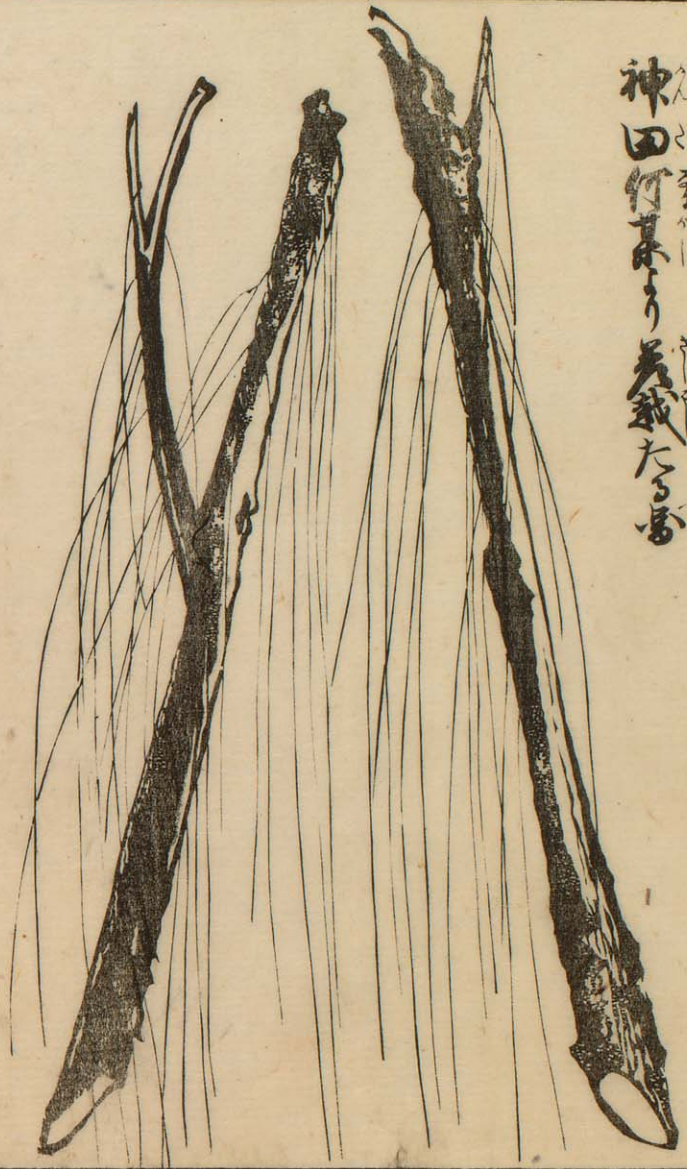
如何成老翁野史とは疾と僕バをと効くもむらあふ
面うに思もましく面白く印く於く入實事と
夫入婆よいあふやと入り平言く云初凡例よ云
うかめく想群時まくと遠へざら振り記とが
存念のり後にも主母と人の舟舌り控くま
虚實の量りむらあふまうまう虚く思ひつかハ記
まもと實く思ひつかのま記を根のまもまも
神伴の靈験よハ平懐りどりりと思入狂の事と
まもまもまもまハ狂更に控の難とまも先角狂
咄と撰びくま後り記せかのまもまもは天女の
余り婀娜りどりりと思へどもたよハ何とぞら門
の難足院の首源河周架日光山瀧尾権現の靈院

辨又天

二ノ五十

記と具り記とまも後記中の権現と親相
まもまもまもまも其文よ云忽然更見一大杉横伏其上直立
其容颜極高貴尊嚴年齡十有七八計垂緑髮於背後着白衫赤
袴身向北面向予まもまもまも見の時ハ権現のまもまも
まもまもまもまも英蘇あり一幸ハ花の天女今う回極
心奉と思りらる根の神々の凡史の概歎と漸はんまも
まもまもまもまもまもまも根人同よハまもまもまもまも
何れ書解とまも文巻のまもまもまもまもまもまもまも
強く實くまもまもまもまもまもまもまもまもまもまも
心りまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまも
漏念を具とまもまもまもまもまもまもまもまもまも
まもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまも

神田竹某より長裁たる者



藤原

二ノ五十二

生々有如何なるもの... 汗流... 幸蒙... 成...
 知り難く... 舊友... 神田竹某... 彼... 文... 之... 下...
 ぬは水野の色... 山中... 采薪... 採...
 ぬく... 新... 丸... 故... 竹... 之... 伐... 来... り... 也... 分... り... 兼... 之...
 此の事也... 是... 文... 政... 八... 年... 己... の... 事... たり... 記... 一... 重... して... 矣... 備...
 又... 聖... 別... 是... 所... 不... 西南... 一... 里... 程... 隔... 不... 所... り... 大... 西... 村... 德... 性... 寺...
 之... 云... 寺... 有... 同... 國... 年... 地... 所... 隔... 右... 寺... の... 裏... の... 方... の... 庭... 前... へ... 礎... 石...
 の... 築... 山... 有... 此... 西... の... 諸... 本... 之... 枝... 幹... 兼... 小... 枝... 之... 細... 之... 終... の...
 如... 之... 向... 若... の... 長... さ... 七... 八... 寸... と... 有... 令... 之... 令... 之... 向... 發... の... 如... 之... 向...
 小... 枝... 之... 如... 之... 向... 若... の... 長... さ... 七... 八... 寸... と... 有... 令... 之... 令... 之... 向... 發... の... 如... 之... 向...
 双... 方... へ... 見... 入... 事... 之... 下... 之... 居...

たるを多くし又生想り印ぐとも皆同し地境をさうくも
 垣一重福ふ隣家の雑木より更りう右寺中り
 とも藝所形ぐよ生居すふ木より少くともさうま
 満本と云ハ紅葉御湯松植けり印ぐ文くあまごも
 いづもの木もよ生居り今地氣の強くも
 とも形るう孫交奉ゆ念心と
 菊見来り並り
 前文と先似りすふ
 本と名座鶴堂町
 真慶寺の老僧の物語り
 有り是と似く見ふ時々
 う根の如ハ地分満園より有く



藤原の事成を聞まへ

神佛の靈験々々車に曳き々々怪家有り

事

江戸芝三回ハ八幡宮之田町七丁目一在く近道の

出産神有り社傳り云系神ハ

應神天皇御長一尺一寸六分弘法大師の作

仲衰天皇御長一尺一寸六分傳教大師の作

神切皇后御長一尺四寸六分同他母よ天見屋根命

去月宿禰の五度り一々人皇四十六代

元明天皇の清寧は地り積産ましくくす頃ハ物領

の大社々々常使形ぐとも度々下向有社地

延喜式内の藤田の神社ありと有り元禄年中崇礼

と云者よ治りしに日人驚く忽修儀を加へ今ハ又
 相殿に掲ぐ收百年に傳つふ甚くはありぬ其こと
 神徳の靈妙恐入る事之
は神の靈験の事
廿五の卷と云一祀一並ぬ
 又是に因法ると徳園武村郡芝山観音寺ハ徳古ハ
 各別の佛園と今も元人志りし事む靈場とく
 本宮觀世音菩薩英二王宮ハ靈験新あふ事世に
 勝る強ひ是又元人の徳知取りし寺に之層の指成
 處と云ふこと京和元年癸の春の事ありて遠近
 の男女競々杖木と雲集むは時然中大杖を伐出
 救人儀の如くに因繞とて聲と出とて引來り
 有り元來は本ハ天物の惜と云ふ申來り有る其の
 天物版立とてせし怪やハ車俄り群集の中を

池出〜止す〜人々驚く〜
 高田〜金兵衛父子小池の夜産の母中澤村の
 茂熱次〜その都合に人を傷と〜車主と〜
 衣股の〜断〜破裂〜
 痛を〜悪化する〜
 博多宿の帯と〜居り〜
 是は〜赤坂中通りの質屋與兵衛と云者の近所の
 其時の形勢〜居り〜
 前の八幡宮の靈験〜今〜
 ありは奉かの寺の畧録〜
 二五十六

神佛靈驗

今少〜事藤の松り思〜
 依起〜二王尊の擁護〜
 の妙智カ〜
 松井又前之と回作の観音
 二十三年四月二夜作 阿鹿者〜
 其の靈験とあり〜
 二王尊の靈験の事と記〜
 梅不思液と形と〜
 現母感〜

想山著聞奇集卷の式